

3.11.5 標準化推進室

室長（兼務） 成瀬 由紀 ほか5名

国際標準化による研究成果の社会還元への推進

■概要

戦略的かつ重点的な標準化活動を実現するために策定されたNICTの標準化に係るアクションプランに基づき、NICTの研究成果が実社会において広く活用されるよう、国際標準化活動の強化、推進を行い、我が国の国際競争力の強化に貢献している。具体的には、国際標準への反映を念頭においた研究開発を推進し、その成果を国際電気通信連合（ITU）等の国際標準化機関や各種フォーラムへ寄与文書として積極的に提案することを支援している。また、NICTは専門的な知見を有する中立的な立場であることから、国内における各種の標準化関係委員会への委員の派遣等を積極的に行っている。さらに、標準化に関するフォーラム活動、国際会議等の我が国での開催を積極的に支援している。

■平成29年度の成果

1. 標準化活動の推進

(1) 研究開発成果の国際標準化に資するため、今中

長期目標期間における戦略的な標準化推進の基礎として重点分野や具体的な行動計画等を定めた「情報通信研究機構標準化アクションプラン」（平成29年3月策定）について、研究開発・標準化活動の進展や標準化機関の動向の変化等を踏まえて改定した。

- (2) 研究開発成果を国際標準に反映していくため、各種国際標準化機関等における会議等に積極的に参加するとともに、平成29年度においては研究開発成果等に基づき延べ208件の寄与文書を提出した。また、標準化に係る各種委員会、国際標準化機関等の会議等において、平成29年度は延べ39人が議長やエディター等の役割を務め、研究開発成果の国際標準化に貢献した。
- (3) ITU-T/R/D、APT、ETSI、3 GPP等の国際標準化機関・団体への参加資格（メンバーシップ）を引き続き維持した。
- (4) このような活動の結果、平成29年度においては、

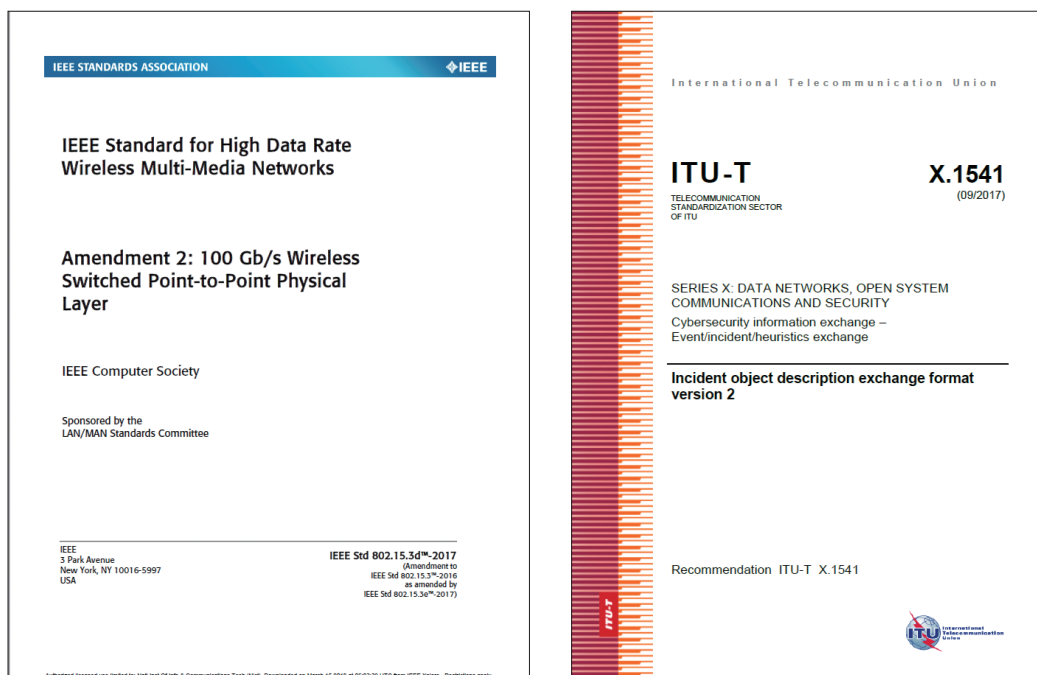


図1 平成29年度に成立した国際標準の例
IEEE Std 802.15.3d-2017 世界初のテラヘルツ波無線通信国際標準規格（左）
ITU-T X.1541 IODEF version 2、インシデント情報交換記述フォーマット（右）



図2 IoTセミナーの様相

世界初のテラヘルツ波無線通信国際標準規格であるIEEE標準802.15.3d-2017をはじめ、ワイヤレスネットワーク、光アクセス基盤、宇宙天気、標準時、電磁環境、セキュリティ等の分野において、NICTの研究成果を反映した21件の国際標準の成立に貢献した（図1）。

- (5) NICTの職員の国際標準化活動に関して、ミリ波近接無線通信に関するITU勧告化やミリ波・テラヘルツ波の有効活用に向けたITUにおける活動への貢献に対して日本ITU協会賞が1名に授与された。

2. 標準化に関する動向把握・人材育成

- (1) 関係組織と協力し、標準化セミナー「ネットワーク仮想化関連の技術動向等について」（平成29年12月）、IoTセミナー「BlockchainはIoTに何を与えるのか？～データの分散と共有がもたらす価値～」(平成30年1月)、ARIB電波利用懇話会「テラヘルツ帯を用いた100Gbit/s級無線通信技術の研究開発動向」（平成30年1月）、NICT/TTC共催セミナー「5G時代のNWインフラ／サービスに



図3 ITU世界テレコム2017の展示

関するITU-T SG13での検討状況」（平成30年3月）等を開催した（図2）。

- (2) 一般社団法人電波産業会（ARIB）との間で平成24年度に締結した連携・協力の推進に関する協定に基づき、第5回NICTとARIBの連携・協力推進に関する連絡会（平成29年8月）をNICT本部において開催し、無線通信関係の標準化活動に関する意見交換を行った。

3. 標準化関連イベントへの参画

- (1) ITU世界テレコム2017及びAPT/ITU相互接続性イベント（平成29年9月・韓国釜山）に参加し、NICTからはシート媒体通信システム、サイバー攻撃観測・分析・対策システムの研究成果についての展示を行うとともにNICTの研究活動についての講演を行った（図3）。
- (2) 量子情報技術に関する産学官連携を推進している「量子ICTフォーラム」（平成29年10月・東京）、IEEE ICSSOS2017（宇宙光学システムと応用に関する国際会議）（平成29年11月・沖縄）の会合運営を支援した。